

ローランド株式会社

2021年12月期第3四半期決算説明会 Q&A 要旨

日時：2021年11月8日 11:00~12:00

説明者：上席執行役員 経営企画担当 田村尚之、上席執行役員 CFO 杉浦俊介

Q1. マレーシア工場の生産比率を教えてください。また、6月以降のマレーシアでの規制や会社の対応などを教えてください。

約5割をマレーシア工場で生産しています。政府からの活動制限令に従い従業員の出勤率を引き下げ、稼働停止もおこなわれました。その後、従業員へのワクチン接種を進めることで、活動制限令の範囲で出勤率を増加させてきました。感染状況が落ち着いてきたこともあり、9月からは本格的に稼働を再開していますが、6月～8月にかけての生産量は計画を下回りました。

Q2. 足元の材料在庫状況について教えてください。

大変厳しい状況ではありますが、5月7日に上方修正した通期予想を達成するために必要な材料は、準備することができています。

Q3. 11月以降のマレーシア工場稼働について、材料不足による稼働低下は見込まれますか。

現時点では、9月、10月と同等の稼働が可能と考えております。

Q4. 半導体調達に対する取り組みについて教えてください。

半導体不足に関しては大きな影響が出ており、見通しはより厳しくなってきていると感じています。昨年発生したサプライヤー様の工場火災以降、市場在庫の早期確保や代替部品による速やかな設計変更など対応してきましたが、現在では不足している半導体の種類も増え、全般的にひっ迫しています。引き続き、各サプライヤーの皆様との信頼関係をベースに、できる限りの確保に努めたいと思います。

Q5. 音源 LSI は専用設計したものでしょうか。

自社で設計しており、外部に生産委託をしています。

Q6. 現状の事業環境は、供給力が競争力に直結すると思いますが、シェアへの影響はありますでしょうか。

非常に旺盛な楽器需要に対し、楽器業界全体でも応えきれず、当社を含め、業界各社で受注残が増加している状況であると思います。シェアに関しては推測になりますが、上半期においては、若干増加したのではないかと考えています。

Q7. 期末に向けて、在庫水準と受注残がどのように変化するか、現時点での見通しについて教えてください。

製品在庫については、昨年のような期末の在庫政策は実施しない見込みです。第4四半期も可能な限り生産し供給していきます。材料在庫については、9月末で在庫量が増えていますが、これは活動制限によりマレーシア工場の生産量が一時的に減少した影響です。受注残については、9月末時点で117億円まで増加しており、期末においても高い水準が続くと考えています。

Q8. コスト増加に伴う価格適正化について教えてください。

全体として数%程度の値上げを第1四半期と第3四半期に実施しました。実際に効果として現れる時期や金額は、受注残の状況や地域によって異なりますので、正確にお示しすることが難しいですが、数億～十数億程度と考えます。来期は通年寄与し、コスト増加分をカバーできると考えています。

Q9. 中国生産において、電力不足の影響はでていますか。

現状影響はでておりません。

Q10. 物流リードタイムについて教えてください。

足元では非常に長くなっており、マレーシアから北米で約2か月半、マレーシアから欧州で約2か月を要しています。

Q11. 地域別業績見込みの変化と理由について教えてください。物流の状況なども反映した結果なのか。

物流の状況も反映しておりますが、基本的には需要の状況により増減しております。

Q12. 中国の学習塾規制の影響と、先々の見通しについて教えてください。

音楽教室は規制の対象外と聞いておりますが、やはり大々的な生徒募集などは抑制されているようです。その影響もあり、生徒数が伸びず当社の売上にも影響が出始めています。一方中長期では、中国が成長市場であるとの認識に変化はありません。趣味需要の増加に加え、日米欧と同様に、アコースティック楽器から電子楽器への転換需要にも期待しています。

※本資料は、ご出席者様から頂戴した主な質問をとりまとめたものです。回答の意図をより分かりやすくするため一部加筆修正を行っております

免責事項

本資料には、ローランド株式会社の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、

当社における実際の業績と異なる恐れがあります。